



一般社団法人

Glocal Academy



第10回

高校生 国際シンポジウム

INTERNATIONAL SYMPOSIUM FOR HIGH SCHOOL STUDENTS



高校生国際シンポジウムは全国で進められている探究活動、課題研究の発表会および審査会です。人文社会学の研究から自然科学や数学、ビジネスの分野までの幅広い分野の研究成果をスライド部門またはポスター部門にて発表します。その他、各界をけん引する方々による基調講演やパネルディスカッション、研修会、参加者対象の交流会、進路に関する座談会の他、今回は世界のトップ研究者による特別対談などがあり本物に触れる二日間のプログラムで、大変充実した学びの場となります。また、今大会もスライド発表の最優秀発表団体および個人の中からグランプリを決定し文部科学大臣賞の授与を行うこととなりました。

2025年2月19-20日

宝山ホール（鹿児島市）にて開催

研究要項提出 1月10日締切

特別対談 世界の知に触れる



阿谷剛彦
オックスフォード大学
名誉教授



齊藤英治
東京大学工学部
物理工学科 教授



第10回 高校生国際シンポジウム

主な審査基準

- 研究背景, 現状の深い理解
- 研究の目的, リサーチクエスションの明確さ
- 先行研究や先行事例等をもとにした, 研究の意義や独自性の提示
- 提案が調査や実験等, 客観的なデータをもとに行われているか(提案型の場合)
- 提案の実現可能性が検討されているか(提案型の場合)
- 結果の論理性や客観性, 考察の深さ
- 引用や参考文献が正しく示され用いられているか
- プレゼンテーション・コミュニケーションスキル
- 英語での発表はその英語力に応じて最大5%加点

詳しくは大会公文や課題研究メソッド(啓林館)等を参照してください。

参加者の声

過去の表彰対象者・参加者が東京大学, 京都大学, 大阪大学, 九州大学, 慶應義塾大学等多くの大学へ合格しています。



普段ならば交流のない人達と知り合うきっかけになった貴重な時間でした。また、普段知り得ないような問題について発表を通して知ることができ、学びが深まりました。(生徒)

同世代の研究内容のレベルの高さに強く刺激を受けました。また、各分野の第一線で活躍されている方々と対話を通じて、今後の進路に対する指針も頂くことができ、大変濃い学びの時間となった。(生徒)

様々な探究・課題研究の発表・審査会に参加してきましたが、地域から国際問題、自然科学や数学に渡るまでこれほど広い分野を高いレベルで見ることができるものは初めてでした。大変勉強になる会でした。(教員)



このシンポジウムで頂いたアドバイスが大学での学びや、自分自身のキャリア形成に良い影響を与えてくれました。高校生の皆さんはこの貴重な2日間を是非大切にしてください。(過去に参加した大学生)

お申し込み方法

1. 参加希望申し込み

令和6年12月1日から令和7年1月10日までに、公文別紙2にある研究要綱に研究内容を記入し、PDF形式に変換したうえで大会申し込みWebサイトより提出します。

2. 書類審査

提出された研究要綱をもとに書類審査を行い、令和7年1月17日に参加資格者を発表します。

3. 参加本申し込み

令和7年1月31日までにWebサイトで該当データを入力することで、本申込を行います。この際に引率教員も同時に申し込みを行って下さい。

4. 発表順序・分野発表

発表分野及び発表順序は令和7年1月17日にWebサイトおよびメールにて発表します。

発表時間

スライド発表: 発表12分/質疑応答7分/審査3分 計22分
ポスター発表: 発表7分/質疑応答3分 計10分

見学のための申し込みは大会申し込みWebサイトにて、公文は大会Webサイトからダウンロード可能です。

Webサイト: glocal-academy.or.jp

お問い合わせ: sympo@glocal-academy.or.jp



2日間の予定

1日目 2月19日	2日目 2月20日
8:50 受付	8:50 受付
9:20 開会行事	9:10 表彰式・講評
9:50 基調講演	10:50 進路座談会
10:45 パネルディスカッション	11:35 特別対談
11:50 昼食	12:30 昼食
13:00 課題研究発表/審査会	登壇者/審査員との交流会
17:25 夕食	14:15 優秀発表/グランプリ表彰
18:15 生徒交流会/研修会	16:00 閉会行事

主催



一般社団法人

Glocal Academy

Instagram



Facebook



岡本尚也

一般社団法人Glocal Academy理事長
/物理学博士/東京大学 先端科学技術
研究センター客員上級研究員/鹿児島
市教育委員

慶應義塾大学理工学部卒、同大学院修了後、ケンブリッジ大学で物理学博士号、オックスフォード大学で日本学修士号を取得。2016年より現職で、データ分析や事例をもとに最適な選択や手段を提供し、人や組織の成長を支援。

協力機関
(予定)



協賛
(予定)



特別協賛

学校法人福岡雙葉学園理事長 学校法人麻生塾塾長 麻生泰

後援
(予定)

文部科学省, 経済産業省,
オックスフォード大学日本事務所, 在福岡米国領事館

パネルディスカッション 『社会の変化と求められる力』



麻生 泰 氏

麻生グループ会長、学校法人福岡雙葉学園理事長 学校法人麻生塾塾長

1946年8月28日生まれ。福岡県飯塚市出身。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。英国オックスフォード大学ニューカレッジ卒業後、大沢商会に勤務。1977年麻生セメント株式会社に入社、1979年同社代表取締役社長、2016年に同社代表取締役会長に就任。一般財団法人慶應連合三田会会長、一般社団法人九州経済連合会名誉会長、学校法人麻生塾塾長、学校法人福岡雙葉学園理事長を務める。

Alison Beale アリソン・ビール 氏

オックスフォード大学日本事務所代表

英国出身、オックスフォード大学卒業（フランス、ドイツ文学専攻）、シェフィールド大学日本研究修士号取得。JETプログラムで赴任した大分県で日本に魅了され、ブリティッシュ・カウンシルに就職、日本を中心に国際文化交流分野でキャリアを積む。現職では日本の企業、財団、卒業生や個人の方々とオックスフォード大学との関係構築、強化に努める。大学改革支援・学位授与機構、日本の大学の国際委員会等での委員、在日英国商工会議所副会頭、日英協会専務理事、新国立劇場理事も務めている。



荒殿 誠 氏

九州大学理事・副学長、プロボスト

1971年鹿児島県立甲南高校卒業後、九州大学へ入学し理学研究科物理化学分野で博士課程を修了。理学博士（九州大学）。日本学術振興会特別研究員などを経て、九州大学教員。助教授在職中にマクスプランク研究所（生物物理化学、ゲッチンゲン）研究員。1997年九州大学教授として界面物理化学研究室を主宰。学士約150名、修士約120名、博士約20名を輩出。日本化学会理事や理学研究院長を経て、2014年10月より現職。主な任務は、理事総括、将来構想や人事関連の立案企画など。



岡部 みどり 氏

上智大学教授：国際政治、移民政策の専門家

国際連合大学「平和と統治プログラム」アカデミックプログラムアソシエイト(2004-2006)、ケンブリッジ大学国際関係研究所客員研究員(2006-2007)、上智大学法学部国際関係法学科准教授(2007-2014)を経て現職。また、この間、オックスフォード大学移民研究所(2014-2015)客員研究員、ジョンズホプキンス大学政治学部客員研究員(2015)などを歴任。法務省難民審査参与員(2021-現在)、法務省「第7次法務省出入国管理政策懇談会」委員(2016-2020)。法務省「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策検討会」構成員(2018-2020)。外務省「将来の課題のための日・オーストリア委員会」委員(2016年、2017年)。このほか、衆議院法務委員会参考人(第213回国会)、経団連、日本証券経済研究所、日本国際情勢研究所などでの講演等、社会貢献活動にも取り組む。



日下部元雄 氏

(株)オープン・シティー研究所所長、元世界銀行副総裁

元世界銀行副総裁、(株)オープン・シティー研究所所長。東京大学大学院修士課程(数学)卒業。エール大学経済学修士、大蔵省入省後、IMF勤務、欧州復興開発銀行中央アジア局長などを経て、世界銀行職員、副総裁(資源動員・協調融資担当)、立命館アジア太平洋大学客員教授。



工藤 春華 氏

富士通株式会社ソーシャルソリューション事業本部、元厚生労働省

富士通株式会社ソーシャルソリューション事業本部Healthy Living所属。京都大学を卒業後、2008年に厚生労働省に入省。子育て支援や母子保健、外国人雇用対策など担当。内閣官房に出向し、首相官邸と厚生労働省の調整にも携わる。2015年からは2年間、イギリスに留学し、オックスフォード大学で公共政策学の修士号を、ロンドン大学で政治学の修士号を取得。2023年からは富士通株式会社に転職。ソーシャルソリューション事業本部Healthy Livingでヘルスケア関連の新規事業企画に従事。

